

学校だより

令和元年12月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



Google社員を迎えての講演会の様子（情報機械システム工学科）



商船学科の実習風景



電子機械工学科の実験風景



制御情報工学科の創造実験中間発表の様子

- 校長式辞
- 情報機械システム工学科の近況
- 就職・進学状況
- 学生の活躍
- 国際交流
- 新任教員紹介
- 学校行事
- 学校通信

校長式辞

令和元年度商船学科卒業証書授与式
並びに専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式

校長 林 祐司

本日ここに、ご来賓ならびに保護者の皆様のご出席のもと、令和元年度、鳥羽商船高等専門学校「商船学科卒業証書授与式」ならびに専攻科「海事システム学専攻修了証書授与式」をとり行い、わが国の産業を担っていく、新鮮で有能な人材を社会に送り出すことができますことは、本校教職員・在校生一同にとりまして、この上ない喜びです。

本日、商船学科を卒業された航海コース十三名、機関コース十七名の皆さんは、五年六月の高等教育の課程を修了し、準学士の称号を授与されました。また、専攻科海事システム学専攻を修了された二名の皆さんは、本科を卒業後、この二年間でさらに高度な専門知識を修得され、大学改革支援・学位授与機構の審査にも合格し、学士の称号が授与されました。卒業生・修了生の皆さんの今日に至るまでの努力を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者・ご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

さて、皆さんは、本当の意味で、これから海図のない人生の遠洋航海に出られるわけですが、UW旗のほかに、私が困った時にいつも思い出すことを紹介いたします。

41年前の1978年、ブリティッシュ・コロンビア カナダ建国二百周年に招かれた旧日本丸は1978年6月16日に49日をかけて太平洋を横断し、カナダ国ビクトリア港港外に錨泊しました。続いてバンクーバー港・アメリカ合衆国シアトル港に着桟し、多くの市民の歓迎を受けました。当地の新聞記事に、当時の中澤船長が答えたインタビューが第一面を飾り、その見出しが次のフレーズでした。

A wooden ship builds iron seamen.

直訳すれば、「木の船は、鉄の船乗りを作る。」

意識すれば、「帆船と海は強い精神と肉体の船乗りを作る。」

昨今の海運界では、帆船教育に対して、ネガティブな意見が散見されますが、帆船教育を41年前に受けた実習生の一人として、太平洋を仲間とともに帆船で往復したことは、いまだに忘れえぬ出来事で、この象徴的な見出し“A wooden ship builds iron seamen.”が以後の船員および社会人としての私の生き方のバックボーンになりました。

皆さんは帆船実習を含む12ヶ月の乗船実習を立派に成し遂げられ、“iron seamen”の仲間になり、強靱な精神と肉体を我が物とされたのですから、今後の人生のあらゆる状況で遺憾なくその力を発揮してください。そして、この強靱な精神と肉体の「強さ」には、「正しさ」と「優しさ」が含まれていることを忘れないでください。

自分を守り、家族を守り、周囲の人々を守る「正しさ」と「優しさ」を持った“iron seamen”は、周りの人々を照らし続けます。



これから皆さんの進む道は、世界に広がっています。そして、将来それは再び交わることがあるはずです。その時に、鳥羽商船高専の卒業生・修了生として自信に満ちた再会をしていただけることを切に願っています。

友達を大切にし、自分の命、家族の命、周りの人々の命を大切にして、今後取り組むべき仕事で社会に貢献されることを祈念いたします。恐れずに弛まずに、希望という輝く星に向けてそれぞれの針路をセツトしてください。今後の人生の御安航を切にお祈りして、式辞といたします。

令和元年九月二十三日

「ごきげんよう！」

情報機械システム工学科の近況



情報機械システム工学科長

江崎 修央

2019年4月に立ち上げた情報機械システム工学科ですが、80名の一斉授業を実施、学生自身のコンピュータの授業での活用（BYOD）など、これまでの本校では、未体験のことも多いのですが、学生たちの意識も高く、教職員のご協力のおかげで順調な門出となっています。夏休みにはMAGOが主催するHACKU名古屋大会、大阪大会にも参加し、名古屋大会では優秀賞（2位）を収めるなど、これから益々活躍してくれることを期待しています。

後期に入り電気電子基礎や機械工学基礎の授業が始まりました。コンピュータは、中学時代から慣れ親しんで利用してきた学生も少なくないと思いますが、電気電子や機械の勉強は全く未知の領域に入ってきたと思います。情報機械システム工学科が育てる技術者は、コンピュータのことは分かることはもちろん、電気電子や機械との連携を進められる人材です。コンピュータ上のシミュレーションにとどまらず、実際のものが動いた感動を味わって、これまでにないモノを開発してくれることを期待しています。

情報機械システム工学科では、公式のWebページの他、Facebookを利用した情報配信も行っています。ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/TobaJohokikai/>

情報機械システム工学科の授業について

一般教育科准教授兼教務主事補

西川 雅堂

情報機械システム工学科（J科）は電子機械工学科（M科）と制御情報工学科（I科）が学科改組により本年度4月に誕生し、80名が入学しました。80名1クラスではなく40名のクラスが2つA、Bに分かれ編成されました。80名が1つの教室で受けている授業もありますが、A、Bそれぞれ同一科目は同じ教員が担当しており、数学もその1つです。担任教員が異なるためかAとBで独自の雰囲気を感じさせてくれます。数学の授業に関しては、この2つのクラスどちらとも静かに真面目に取り組んでいるように見えます。試験を行ってみても、各クラスの平均はほぼ同じで大差はありません。ただJ科に限らず、数学に関し毎年思うのですが、自分の考えを人に説明する際の説明能力に欠けている学生が多いことです。数学の解答といえども日本語の文章です。式をどのように変形して、その解答に至ったのか説明を書かず、式の羅列を書いて終わり。さらに計算を頭の中で行って答えだけ書くので見直すときもどこで間違っているのかも検算できない。書いた本人は当然わかっているとは思いますが、採点する人はその人の頭の中で考えていることはわかりません。面倒なこととも思っても詳しく書くことが大事で、それが出来るようになるための早道です。今年のJ科の皆さんにはそのことを早く悟ってくれることを期待

します。

今年のJ科はプログラミング教育に力を入れているためか、授業を自習時間にして好きな勉強をさせてみても、パソコンを取り出してやっている姿が目につきます。学科の特色が表れ、新しい学科ができたことを感じさせられることが多く、将来が楽しみでもあります。



商船学科 機関コースの就職・進学状況について



商船学科長兼航海コース主任

片岡 高志

商船学科航海コースの令和元年9月卒業生は13名です。このうち就職が9名、進学が4名となりました。海運会社からの求人は、昨年と比較して外航内航ともほぼ同じであり、ここ数年変わりはありません。以下に、進路の内訳を示します。

就職は海上就職が8名、陸上就職が1名となりました。海上は、中央海運、東京汽船、商船三井フェリー、商船三井オーシャンエクスパート、ウイングマリタイムサービス、イイノガストランスポート、山友汽船、鶴見サンマリンに各1名が採用されました。陸上は、新日本検定協会に1名採用されました。進学は、本校専攻科に1名、東京海洋大学海洋工学部に2名、神戸大学海事科学部に1名となりました。大学は、何れも三年次への編入学となります。

また、専攻科海事システム学修了生は2名で、旭タンカー、J R九州高速船に就職しました。専攻科修了生は、何れも航海コース出身です。

今年は陸上就職者が1名おりましたが、ここ数年の傾向として、航海コースは本科、専攻科ともほぼ全員が海上就職に就いております。三級海技士の養成施設としての使命は果たしているのではないのでしょうか。在校生のみなさんも先輩に続くよう、より一層勉学に励み、自身の夢をつかんで欲しいと思います。頑張ってください。

商船学科 機関コースの就職・進学状況について



商船学科機関コース主任

窪田 祥朗

令和元年9月の商船学科機関コースの卒業生は17名でした。そのうち、就職が15名、進学が3名でした。就職は、海上就職が12名、陸上就職が2名となっています。また、海上就職の内訳は、外航が2名、内航が11名です。外航は、商船三井オーシャンエクスパート、J Xオーシャンに各1名でした。内航は、内海曳船に2名、商船三井フェリー、福寿船、鹿児島船舶、ファーストマリン、上野トランステック、浪速タンカー、琵琶湖汽船、グリーンシッピングに各1名でした。陸上就職は、電脳交通、飛鳥コンテナ埠頭に各1名でした。進学は、東京海洋大学、神戸大学、鳥羽商船高専専攻科にそれぞれ1名ずつです。卒業生のうち、1級海技士（機関）筆記試験に2名が合格し、2級海技士（機関）筆記試験に7名が合格しております。卒業生の半数以上が国家試験に合格しています。年々、外航への就職が厳しくなっています。外航へ就職する卒業生は2名とも1級海技士の筆記試験に合格しています。この結果からも、船舶職員として就職するには、資格取得が重要といえるでしょう。

海上就職を希望する在校生の皆さんは、就職活動が始まる（4年生の春休み）までに、海技士国家試験に合格できるよう準備しておいてください。仮に就職できたとしても、上級免状を取得しなければ昇進できません。仕事をしながらの資格取得は大変です。学生のうちに資格を取得することが最善策と認識し、学生生活を楽しみつつ、勉学にも励んでください。

電子機械工学科の就職・進学状況について



電子機械工学科長

林 浩一

今年度の電子機械工学科5年生は33名です。その内8名が進学、25名が就職を希望し、それぞれの進路に向けて活動を行ってきました。その結果10月の時点で、進学希望者は8名全員、就職希望者は24名の進路が決定しています。

進学先としては、千葉大学1名、豊橋技術科学大学2名、長岡技術科学大学2名、本校専攻科3名となっており、いずれの学生もこれまでに学んできた知識を生かして、機械または電気系の学科から、推薦入試で合格を頂いています。

一方で就職先の業種は、機械装置、電子部品、化学製品、金属材料などの製造業や、電力や鉄道、通信などのインフラ産業、機械や電気、情報分野のアウトソーシング業など多岐にわたっており、それぞれの企業において、設計や生産技術、保守などの業務において活躍が期待されています。また、多くの学生は推薦応募で内定を頂いていますが、今年度は少数ながら自由応募で内定を頂いた学生もいます。

進学と就職のいずれにしても、将来の目標が明確である学生は、比較的スムーズに進路が決定しているように感じます。現在4年生以下の学生は、まずは将来自分がなりたい姿をイメージできるように頑張ってください。その上で、それを実現させるために今何をすべきかを考え、日々の授業や課外活動などに向き合っていたいただきたいと思います。

制御情報工学科の就職・進学状況について



制御情報工学科長

出江 幸重

本年度の制御情報工学科5年生は40名です。そのうち、11名が進学、29名が就職希望です。進学のうち6名は本校専攻科、5名は大学進学（豊橋技術科学大学2名、長岡技術科学大学2名、静岡大学1名）で、11名全員が決定しています。就職は公務員希望の1名を除き、全員が企業から内定をいただいています。就職先を大まかに分類すると情報・通信分野と電気・機械分野が半々です。職種としては設計・開発と保守・メンテナンスがそれぞれ3割強、生産技術が3割といった割合です。3割強が県内、7割強が県外企業です。

制御情報工学科の例年の就職活動スケジュールは次のとおりです。4年生の12月～1月にかけて学生にアンケートを取り、その結果を踏まえて2月の中旬から個人面談を行います。個人面談では、希望する分野や企業はもちろん、希望する地域や学生自身の適性や性格も考えながら話し合います。その中で第一希望を決定していきます。ここ数年は、7月上旬の段階で、ほとんどの学生が内定をいただいている状況です。

人材不足で売り手市場ではありますが、しっかりと準備しないと内定はいただけません。今後活動する4年生以下のみなさんは十分に準備することが大切だと思います。

専攻科の進路について



専攻科長

宮崎 孝

専攻科の進路ですが、今年の特徴としては、1年生の時、インターンシップに参加した企業へ応募した学生が多かったことが挙げられます。半数の学生が、インターンシップ参加企業を第一希望としていました。専攻科のインターンシップは、単位認定のために2週間以上の期間が必要となるため、じっくりと実習が行えて、その企業についてもより深く知ることが出来ます。元々興味がある企業にインターンシップへ行くこともあり、このような結果となったと思われます。今年の1年生も、1人で3社に参加したり、個人で申し込んだりした場合も多く、単位取得のためというより就職を考慮してインターンシップに参加している印象を受けました。学生は、以前よりインターンシップを重視しているようです。

今年も、一社目で内々定となった学生と、決まらずに苦労する学生とに別れたように思います。就職状況が良い時でも、インターンシップも含めて、早めの準備が大事だと感じました。

今年の生産システム工学専攻の全員が就職で、進学者は0人です。昨年は、3名が進学していますので、年度ごとのバラつきが多い印象です。進学も考慮して、進路を決めて行つて欲しいと思います。

平成31年3月及び令和元年9月卒業生進路先一覧（順不同） 令和元年9月30日現在

商船学科

- 就職先 中央海運㈱、一般財団法人新日本検定協会、東京汽船㈱、商船三井フェリー㈱、商船三井オーシャンエキスパート㈱、ウィングマリタイムサービス㈱、イノガストランスポート㈱、鶴見サンマリン㈱、鹿児島船舶㈱、浪速タンカー㈱、グリーン SHIPPING ㈱、内海曳船㈱、JXオーシャン㈱、上野トランステック㈱、ファーストマリンサービス㈱、㈱電脳交通、福寿船舶㈱、飛島コンテナ埠頭㈱、琵琶湖汽船㈱、山友汽船㈱
- 進学先 鳥羽商船高等専門学校専攻科、東京海洋大学海洋工学部、神戸大学海事科学部

電子機械工学科

- 就職先 ダイキン工業㈱、村田機械㈱、㈱LIXIL、㈱アテック、イオンディライト㈱、㈱NTTファシリティーズ、明石機械工業㈱、中部電力㈱、サントリーグループ、三菱電機エンジニアリング㈱、第一工業製薬㈱、㈱マイスターエンジニアリング、パワーサプライテクノロジー㈱、㈱JALエンジニアリング、東芝インフラシステムズ㈱、シンフォニアエンジニアリング㈱、オークマ㈱、旭化成㈱、西日本旅客鉄道㈱、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング㈱、東海交通機械㈱、パナソニックシステムソリューションズジャパン㈱、ナブテスコ㈱、東海旅客鉄道㈱、㈱テコモ、㈱アビスト、四日市合成㈱、浜松ホトニクス㈱、西日本コベルコ建機㈱、廣瀬精工㈱、旭電気㈱
- 進学先 鳥羽商船高等専門学校専攻科、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学

制御情報工学科

- 就職先 パナソニック㈱インダストリアルソリューションズ社伊勢工場、富士ゼロックス三重㈱、美和ロック㈱、UL Japan㈱、メタウォーター㈱、㈱FIXER、中部電力㈱、富士通クラウドテクノロジーズ㈱、NTTコムエンジニアリング㈱、㈱NTTフィールドテクノ、ダックスシステム㈱、国際ソフトウェア㈱、㈱NTTネオメイト、パナソニック㈱ライフソリューションズ社津工場、イーウェル㈱、キャノン㈱、㈱LIXIL、東芝インフラシステムズ㈱、オムロンフィールドエンジニアリング㈱、キャノンシステムアンドサポート㈱、森永乳業㈱中京工場、キクカウエンタープライズ㈱、シンフォニアテクノロジー㈱
- 進学先 鳥羽商船高等専門学校専攻科、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、電気通信大学
- その他 自主就職

平成31年3月及び令和元年9月専攻科修了生進路先一覧（順不同） 令和元年9月30日現在

海事システム学専攻

- 就職先 旭タンカー㈱、JR九州高速船舶

生産システム工学専攻

- 就職先 パナソニック㈱インダストリアルソリューションズ社伊勢工場、オムロン㈱、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング㈱、㈱エヌ・ティ・ティ エムイー、東海旅客鉄道㈱、ヤフー㈱、㈱FIXER
- 進学先 北陸先端科学技術大学院大学、静岡大学大学院

学生の活躍

人命救助について

制御情報工学科3年

鈴木 宙大

8月上旬に下校途中、人命救助に携わる機会がありました。皆さんにも同じようなことがあるかもしれませんので、情報共有させていただきます。私は前期期末試験が全て終わり、お昼ごろ帰るために池の浦駅に向かっていました。鳥羽小学校の辺りで散歩をしているおじいさんを目にしたのですが、足元がふらついていて様子がおかしく声をかけようとした瞬間、突然倒れてしまいました。慌てて駆け寄ると、おじいさんは頭から血を流していて、「これは大変だ!」と思い、救急車を呼びました。初めてのことで戸惑い、どう対応すればいいのかわからなかったところ、おじいさんの知り合いの方が来て、電話の対応を手伝ってくれました。夏休み明けにおじいさんの息子さんから「もし遅れていたら危なかったかもしれない。」と伺い、「助かって良かったです。」と安心しました。

今回の経験で私は尊い命を救うには1人1人の行動が大切だと改めて実感しました。もし、あなたがそんな場面に遭遇した時、慌てず、落ち着いて行動してほしいです。

人命救助について

商船学科機関コース5年

尾崎 広夢

2月16日午後10時半頃、鳥羽市小浜町の道路沿いの海岸で、助けを求める男性(当時62歳)の声が聞こえました。当時SN5の塚原航平さんと私は、旅館で泊まり込みのアルバイトをしていました。よく通る道でしたが、普段とは違う音がしたため辺りを見回わすと、岩場につかまって助けを求める男性がいるのを発見しました。すぐに私は救急車を呼び、塚原くんには旅館にある掛布団を取りに行ってもらいました。その間に岩場まで下り、私の上着を着せて男性の身体を温めるよう擦り、レスキュー隊を待ちました。レスキュー隊到着後、無事男性は救助されました。

男性は発見の1時間ほど前に自転車で走行中、海へ転落し、真冬で海水温も低かったために体温が33℃まで低下しており、発見が遅ければ命の危険もあったそうです。後日、消防署から表彰して頂き、元気になった男性とお会いすることができました。緊急時に落ち着いて行動し、人命救助に尽力出来たことを誇りに思います。

令和元年度全国高等学校総合体育大会 少林寺拳法大会

商船学科航海コース3年

三輪 恭也

8月2日から宮崎市のKIRISIMAツブキ武道館で開催された「令和元年度全国高等学校総体体育大会 少林寺拳法大会」に参加してきました。

本校からは男子組演武一組、女子組演武一組の計四名が出場しました。期末試験期間と重なり、あまり練習時間を取れなかった中、自分たちで時間を作り、短い練習の中で質の高い練習ができました。

大会当日は、全国から各地区を代表する素晴らしい拳士が集まり、それぞれが練習の成果を発揮し、緊迫した空気ででした。私は三年生で、最後のインターハイだったので、悔いの残らない大会にしようとして決めていました。出場するギリギリまで練習をし、自分の持てる力を発揮することが出来ました。

今回の大会を通して、全国の各地の素晴らしい拳士の演武を見て、自分たちの演武の悪いところ、良いところがわかり、とても良い経験になりました。まだ、これからも大会がある今回の経験を糧にさらなる上達のため日々精進していきます。



第54回全国高等学校専門学校体育大会陸上競技について

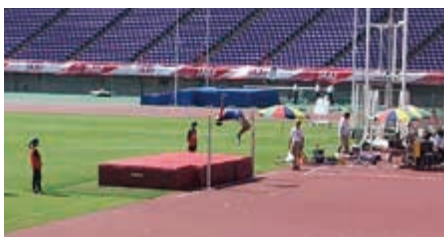
電子機械工学科3年

畠田 寛大

今年、全国高専で陸上競技の走高跳びに出場し、優勝することができました。去年は優勝できず、悔しい思いをしました。「来年こそは優勝する」という思いであれから練習をしてきました。今シーズンは自己新記録を更新できず、調子はいいいとは言えない状態だったので前日まで不安でいっぱいでした。

競技が始まり、自己ベストの201cmまでバーが上がり3本目の跳躍、跳べば優勝という場面でした。今年目標にしていた記録には届かなかったため、嬉しけれど悔しさもありました。次の高さは暑さでやられ、体力が残ってなかったのだとそこは課題だと思いました。

まだ跳躍に安定感がなく、技術もまだまだ伸ばせるところが多いので、1度の優勝で満足せずに来年からはより高い記録で優勝を狙ってきたいと思います。



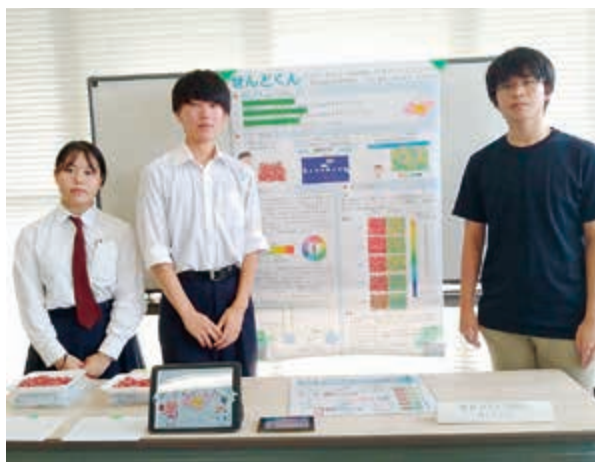
学生スマートフォン アプリコンテストで受賞

制御情報工学科3年

中村 太洋

私たちはスマートフォンでカメラでお肉の鮮度を推定することができる『せんどくん』というアプリを作成し、第7回学生スマートフォンアプリコンテストで最優秀賞を受賞しました。

このアプリを作成するにあたり、私たちはお肉に含まれているミオグロビンという色素タンパク質に注目しました。ミオグロビンはお肉の鮮度状態に影響し、酸化すると色が変化します。



人間は色の微小な濃淡変化を捉えることが苦手なので鮮度が低下しているのか判断できない場合があります。そこで変化を強調して表示することで鮮度の状態を可視化しました。これにより食中毒や、食品ロスを防ぐことができると考えています。

実際に審査員の方々にアプリを体験していただくと、多くの方に興味を持っていただけたようでお褒めのお言葉も沢山頂戴しました。

私はコンテストに出場することが初めてで不安でした。作業に行き詰まることも多々あり、自身の知識、技術不足を痛感しました。そのため先輩、教員の皆様には沢山サポートしていただきました。一人では絶対にできないとても貴重な経験をさせていただきました。アプリ『せんどくん』の作成に関われたことをとても光栄に思います。コンテストを通じて学んだことを糧にこの先の学校活動に取り組みたいです。

また、今回のコンテストでは本校から出場した2チームの作品、『鯛重計 de ラクしたい』と『木実の名は。』が優秀賞を受賞しました。

Hack U 名古屋に参加して

情報機械システム工学科1年B組

小畑 慧吾

私たちは Hack U 2019 NAGOYA に出場し、優秀賞を頂きました。開発したのは、compass roulette というGPSのバグを利用したルーレットアプリです。これは、スマホのコンパスはぐるぐる回すと方向が狂い、針がランダムな方向を指してしまうバグを利用した作品です。これを使うことで旅行先などで優柔不断な人も行き先をスパスパと決めることが出来ます。コンパスのバグを利用するというアイデア力が高く評価され、受賞に至りました。

今回の大会を振り返って、作業していくうえで難しかった事や困った事は、まだ習っていないプログラム言語を使わなければいけなかったことと、作業時間があまりなかった事です。作業期間が実質2週間ほどしかなく、計画して開発することが大切なのだと実感しました。授業以外でプログラミングをすることが出来たのは、私にとって大きな経験になりました。しかし、これだけで満足することなく、次回は最優秀賞が取れるよう努力を続けていきます。



Hack U 2019 OSAKA 大会最優秀賞

生産システム工学専攻1年

佐伯 元規

私は、2019年9月3日に開催されたYahoo Japan 主催のコンテスト、Hack U 2019 OSAKA 大会に参加しました。Hack U とは学生がプロダクトを自ら企画・開発・発表するイベントです。そこで私たちは、ハッカソン等のプレゼン時間計測の代わりとなる、新たなプロダクト「落とす時計」を発表しました。会話やプレゼンの内容から聴衆の興味深さを読み取り、興味深い内容であれば長い時間を与え、そうでなければ早々に会話を切り上げさせます。具体的には、砂時計の砂の落ちる量を調整して時間の経過を制御します。これにより、楽しい時間を長くすることができ、逆の場合は時間を早く進めることができる魔法の砂時計を実現しました。審査員にアイデアや技術が評価され、見事最優秀賞を受賞することができました。私たちの今までの経験や技術力を十分に発揮し、結果を残すことができたのが嬉しかったです。また、リーダーの私を最後まで支えてくれたメンバーに感謝します。



最優秀賞を受賞の記念撮影

ロボコンに関わって

電子機械工学科5年 石山 拓矢

私は今年でロボコンに携わって5年になります。今年はチームリーダーを務めさせていただきました。

今年の競技内容は洗濯物を洗濯代から回収し、物干し竿に干すことです。洗濯物は柔らかく、ロボットより大きいものもあり扱いがとても難しいです。また、参加できるロボットは2台までで、1台は人間が操作しなくても動く自動ロボットでなければなりませんでした。このような難しい課題をクリアするためには、ロボットのアイデアが大切です。私が所属しているBチームは5年生が8人のチームで、内3人がロボコン未経験だったので、ロボコン経験者は今までの経験を生かして、未経験者は新しい視点でアイデアを出し合いました。アイデアがまとまると、そのアイデアを実現するためのロボット設計が始まります。自分たちで考えたアイデアを実現することはとても難しいですが、夏休みに入る頃にはロボットの大きな設計は完了しており、今年のロボコンは順調に進んでいると考えました。しかし、実際にロボットの製作が始まると、8人という少ない人数で作業するのがどれだけ大変かを知りました。夏休みが終わった段階では1台しかロボットが完

成しておらず、自分の仕事である制御も進んでいるとは言えませんでした。

何とか間に合わせようと夜遅くまでの作業が続きましたが、実際にロボットがまともに動いたのは10月に入ってからでした。そんな状況の中でも、チームメンバーや教員の協力もあって、大会前日にはロボットが完成しました。地区大会では予選リーグを突破し、決勝リーグに進むことができました。決勝リーグではバスタオルを干す機構がうまく動作せず、全国大会に出場とはなりませんでしたが、地区大会ベスト4&デザイン賞という結果を残すことができました。

今年のロボコンを通じて、自分のリーダーシップ・計画性のなさを思い知りました。同時にそれらの大切さや、今まで知らなかった高度な技術や知識を学ぶことができました。このような貴重な経験を生かして技術者として成長していきたいです。



高専プロコンで優秀賞

制御情報工学科3年 釜谷 優来

優秀賞と企業賞を2つ、第30回全国高等専門学校プログラミングコンテストで私たちが収めた成績です。私たちは「とばまっぷ」という、住民情報や施設の位置を地図上に可視化することで課題や目標を見つけ、発見した問題点の解決策を提案してくれるWEBアプリを作りました。さらに過去・現在・未来も見ることができる機能を持ち合わせています。

私が開発したシステムの凄さに気づいたのは、恥ずかしながらも、大会が行われた初日でした。お客さんや審査員、企業の方が「よくできてるね」や「凄いことをしている」と言ってくれた言葉で、4月からの半年間頑張った良かったなと思いました。結果として受賞したのは優秀賞でした。私は鳥羽商船の4連覇を果たせることができず悔しいのはもちろん自分を情けなく感じました。しかし、私は食欲にこれからも研究を続け、技術力の向上と最優秀賞を掴み取るため頑張ります。



ソーラー&人力ボート全日本選手権大会2019に参加して

商船学科航海コース5年

市川 翔大

8月24日から26日に愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターで開催された、ソーラー&人力ボート全日本選手権の人力ボート部門に5年生3人で参加しました。

この大会は人力またはソーラーパワーを用いて推進する手作りボートのレースで、毎年夏に1回日本ソーラー&人力ボート協会の主催で大会が開催されています。ボートのスピードだけでなく、ボート自体の耐久性・操縦性などが求められます。このボートレースに本校では、2007年から商船学科の鎌田先生とその卒業研究学生達を中心としたチームで13年連続の出場となり、プロペラを新たに設計製作した「カマテック19号」で挑戦しました。

レース前日は風雨が強く大会の開催が危ぶまれましたが、当日は暑い晴天となり、トラブルも無く全レース無事完走することができました。レースの結果は「学生の部総合優勝」と、自己新記録の7・89ノットを達成することができました。

今後も、高専生らしいアイデアと創造力で新たな記録へのチャレンジを期待していきます。



国際交流

スタディーキャンプ in NZ

制御情報工学科3年 辻 陸玖

私は『トビタテ！留学JAPAN』という官民協働海外留学支援制度を利用して、ニュージーランドのダニーデンにある、“Otago Polytechnic”という総合専門学校へ18日間の留学をさせて頂きました。現地では他高専の学生と共に英会話やSDGsに関する授業を受けました。SDGsとは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。学校の授業はすべて英語で行われました。英会話の授業では、決められた題材に基づいてスピーチを行ったり、他高専の学生と英語でのコミュニケーションを取る時間を設けられました。SDGsに関する授業では、SDGsの中でも「6.安全な水と



トイレを世界中に」・「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の2つについて学びました。安価にかつ安全に水・電気を提供するにはどうすればいいかなどエンジニアリングをシェアしました。他高専の仲間たちと共に、日本とは違った環境でこのような経験をすることができて本当に良かったです。

ホームステイでは、日本との文化の違いを直接感じることで、実際に行ってみないとわからないことをたくさん知ることができました。ホストファミリーは初日から最終日まで毎日私にとっても親切にしてくれました。学校の宿題に苦戦していた私をいつでも丁寧に難しい単語を分かりやすい単語に変えてわかりやすく教えてくれました。また、ホストブラザーとホストシスターとも日本の遊びやスポーツと一緒にすることでとても仲良くなり、とても充実したホームステイ生活を送ることができました。短い時間でしたが、言葉や文字では表すことのできないくらい楽しかった思い出や経験をすることができました。この留学であったすべての出来事が自分にとって何物にも変えられない財産になりました。



SMA鳥羽丸トレーニング

商船学科1年 續石 まとい

私は9月11日から18日行われたSMA鳥羽丸トレーニングに参加しました。前半は鳥羽丸実習や鳥羽、伊勢のフィールドワーク、後半は名古屋港水族館やトヨタ技術記念館などの名古屋観光をしました。

SMA (Singapore Maritime Academy) の学生は航海コース、機関コース、ビジネスコースに分かれています。プログラムの間は航海コースと機関コースに分かれて実習を行いました。私は航海コース志望なので航海コースで実習を行いました。普段は日本語で話す出入港の号令を英語で行ったり、消火器について英語で説明したりと、初めての体験がたくさんありました。フィールドワークや名古屋観光では、日本

本のことを英語で説明したりして、私自身も日本のことを深く知ることができました。また、SMAの学生にシンガポールについて



て教わり、日本との違いや類似点などを知りました。今まで以上にシンガポールに興味を持つようになりました。

私は英語が苦手で、初めは言いにくいことがうまく伝わらなかったり、聞きとれなかったりしたことが何度ありましたが、間違いを恐れず積極的に話しかけてたくさんコミュニケーションをとるよう心掛けました。

今回のプログラムは短い期間でしたが、英語でのコミュニケーションの楽しさを知り、海外に友達を作ることができました。先輩にたくさん助られ、改めて英語の大切さに気付くことができました。私も先輩のように英語が話せるように、これからも英語の勉強を頑張ろうと思います。





商船学科 助教

富山 貴史

2019年1月1日付で練習船鳥羽丸の一等航海士兼、助教として着任しました。富山貴史と申します。私は本校専攻科を卒業後、約10年間、海運会社で海上勤務や陸上勤務として船舶の安全、運航管理業務、人材育成業務を行っておりました。本校学生の際は、寮生として晩寮で生活し、寮生会のメンバーとして活動していました。晩寮寮歌復活や新入寮生歓迎BBQなどを企画運営しました。また、クラブ活動としては、カッター部に所属し高専大会優勝常連校として連戦連勝を飾りました。

ここで、海運会社にいた時のお話を少ししたいと思います。海上勤務中には経験し難い厳しい状況を体験しました。それは東日本大震災の津波でした。当時、私は三等航海士として仙台港で荷役を行っていました。地震発生から直ちに船長の号令で緊急出港し、命からがら津波を何とか乗り越えて港外へ逃げました。乗組員は全員無事で一安心しましたが、緊急出港の為、主機関に無理を

させたせいか、チャージャーが故障しましたが、応急修理し母港まで帰りました。他には、陸上勤務時代には海難事故対応や水産高校等で船員について講演を行ったりと、船舶の運航以外の仕事も多かったように思います。まだまだ、語り足りませんが残りは、実習や授業の時に話していこうと思います。学生の皆さんには一味違った教員として頑張っていきますので、興味のあることは気軽に何でも質問して下さい。

それでは、久しぶりの再会となる本校教職員の方々、まだまだ未熟なところがございますが、皆さんと一緒に海上技術者育成に邁進していく所存でございますので、これからもご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



情報機械システム工学科 教授

西山 延昌

9月より、情報機械システム工学科の教授として着任いたしました西山延昌と申します。40年間企業で磁気ディスク装置の電気系の研究・開発を行い、昨年末退職しました。還暦である今年、第2の人生として教職を選びました。「風変わりなやつ」として御記憶いただいたために、出身地と研究活動で得たことと心を救った言葉の3点を紹介します。

出身地は、四国の香川県にある善通寺市です。香川県は讃岐うどんで有名であり、善通寺市は弘法大師空海の生誕の地です。北の多度津は少林寺拳法の総本山があり、南の琴平は金毘羅山の本宮があります。のどかな田舎で育ちました。

40年間の研究活動で得たことは、競い合った世界の研究者・技術者とグラスを片手に昔話ができたことです。若いころは、先の技術を見据えて今何をすべきかを考え、必要な研究および技術開発を死に物狂いで行いました。得られた成果を国内外の学会で報告し、熱い議論を交わしました。企業の壁・言葉の壁を越えて

苦勞をしながら議論をした人たちと、年齢を重ねることによって互いに尊敬できる友人に代わってきました。文字通り「昨日の敵は今日の友」です。

研究活動で成果が得られなかった頃は、心が折れそうになりました。そのような時、ある言葉によって心が救われることを実感しました。読んでいただいたあなたへの一助になることを願って、『座右の銘』をここに記します。

『苦あれば楽あり、楽あれば苦あり』
『なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人の なさねばなりけり』

自分で決めた第2の人生です。結果を恐れず、ただただ全力で走りまします。よろしくお願いいたします。



練習船鳥羽丸の「和歌山県日高港」及び「阪神港神戸区中突堤」寄港について

鳥羽丸船長 齊心 俊憲

鳥羽丸は、2019年6月3日（月）7日（金）商船学科航海コース5年生の航海実習において、「和歌山県日高港」及び「阪神港神戸区中突堤」に寄港いたしました。

今年度より2単位となり、鳥羽丸初の5日間という長期航海実習となりました。

この航海実習は、教室で行われているECDIS（電子海図表示装置）講習とリンクさせて、「学生自身が航海計画を立て、鳥羽丸を目的地まで航海させる」という方針で行いました。学生は就職活動などで忙しい合間で、協力しながら航路調査やコースラインを引き、航海計画を完成させました。

今航海は、航海コース小島先生が次席一等航海士として乗船し、3班に分かれて夜航海を含む航海当直を行いました。

「日高港」では、地元幼稚園児や小学生を鳥羽丸にお招きし、船内一般公開及び体験航海を行いました。夜には学生交流会で和歌山工業高専との交流を深めました。

「神戸港」では、学生主体で計画した船内一般公開を行い、多数の見学者がありました。

この天候に恵まれた420マイルの航海で、学生は他では得ることのできない貴重な経験を得られたものと思います。



リーダーズトレーニングに参加して

制御情報工学科4年 中西 翔斗

私は、9月28日の土曜日開催のリーダーズトレーニングに学生会副会長として参加しました。リーダーズトレーニングは、リーダーの育成とリーダーシップの向上を目的とした学校行事で、各クラブの代表者と学生会役員、寮生会役員が参加しています。また本校との交流を深めるために、鈴鹿工業高専からも6名の学生の参加がありました。

午前は宗田美名子先生の「リーダーとしてのメンタルトレーニング」の研修を行いました。午後からは学生主事の指導のもと、安全講習とAED講習を受けました。その後、学生会の紹介があり、各クラブ代表と学生会の低学年の役員にクラブ予算の配分の方針について学んでもらうため、学生会長による「部費の申請・決算手続き」の講習が行われました。最後に鈴鹿工業高専の学生会の紹介をしていただきました。

今回のリーダーズトレーニングを通して、口頭で情報を伝える難しさや、コミュニケーションをとる楽しさを実感しました。またAEDの使い方はもちろん、救助の難しさや重要さを深く学びました。この貴重な体験を今後も生かしていきたいです。



工場見学に参加して

電子機械工学科4年 山下 真輝

私たち電子機械工学科4年生は「キオクシア株式会社四日市工場」「田中貴金属工業平塚工場」「ジェイベック磯子カンパニー磯子火力発電所」を三日間かけて見学しました。

1日目は「キオクシア株式会社四日市工場」を見学しました。キオクシアは世界でも有数の規模の半導体メモリ製造工場です。フラッシュメモリなどの半導体の製造工程を見学しました。

2日目は「田中貴金属工業平塚工場」を見学しました。田中貴金属は金属アクセサリーだけでなく、例えば車の事故時に作動するエアバックの作動部品など信頼性が求められる精密な金属部品を作っています。お客様の万が一の時に金属が錆びていて作動しないなどの不具合が起こらないように精密な金属を作っている会社です。

3日目は「ジェイベック磯子カンパニー磯子火力発電所」を見学しました。ジェイベックでは私たちの生活に欠かせない電気を作っている建物を見学し、保守・運転また環境への配慮のお話を聞きました。

今回の工場見学では、一つの製品を作るにあたって、たくさんの人が関わり社員の方、皆さんが高い意識をもって製品を作っていると感じました。



フィールドワークについて

電子機械工学科2年 坂本 智之

私たち電子機械工学科2年生は10月23日にフィールドワークとして美和ロック株式会社の玉城工場、株式会社村田製作所の八日市事業所の2か所に工場見学に行きました。

最初に美和ロック株式会社に行きました。現在は国内No.1のセキュリティメーカーとして事業を展開されています。工場内では細かい部品を製造している場所が多く、中には性能テストをしている場所もありました。約50科目の検査を行う場所もあり、信頼できる商品にしていることが感じ取れました。

次に向かったのは株式会社村田製作所です。そこは総合電子部品を扱っている会社で、小さな部品を作ることが得意と聞きました。工場内の見学も知らないことが多かったですが、この会社の福利厚生の実態の方に驚きました。社員食堂、寮、休暇制度についてなど社員が働きやすいように環境を整えてくれている会社だと思いました。

最後に、今回の工場見学は会社を知るいい機会になったのだと、行つてよかったと言えるフィールドワークとなりました。



第54回海学祭を開催して

海学祭実行委員長 山本 一稀

令和になって初めての海学祭を、10月26日と27日に開催しました。

海学祭一週間ほど前になって台風が発生したことで天候が懸念されましたが、前日まで雨が降っていたものの、開催日は両日とも好天に恵られました。学生・教職員・学生会役員など多くの方々にご協力いただき、このような素敵な海学祭を開催できたのだと思います。海学祭実行委員を代表して御礼申し上げます。

海学祭の準備や運営には毎年多くの学生会役員が携わっていますが、今年の学生会執行部には不安がありました。これまでと比べて上級生が圧倒的に少なく、指示のできる人材が足りないのではないかと懸念していたのです。去年の実行委員長の働きを副実行委員長として間近で見てきた私だからこそ、そのように感じたのだと思います。しかし、終わってみると、そうした心配は杞憂でした。下級生がとても優秀で、上級生の不足を補ってくれました。彼らがこれまで前任者が指導してきたことを的確に捉えて実行してくれたことで、大きなトラブルなく海学祭を実施できたのだと思います。

今年の成果に満足せず、次の海学祭をさらにパワーアップしたものにしたいという思いを胸に、来年度に向けて準備を進めていきます。



公開講座・出前授業実施

本校では今年度も、小中学生を対象に学びの機会を提供すること・鳥羽商船の魅力伝えることを目的として、公開講座「サイテクランド2019」及び「小学生のためのバレーボール教室」を実施しました。台風の影響により中止となった講座もありましたが、今年度は、伊勢・鳥羽・志摩地区を中心に約200名の小中学生に参加していただきました。各講座の受講者は講師の説明を熱心に聞き、意欲的に講座に取り組んでいました。

また、出前授業では依頼があった伊勢・鳥羽市内の小中学校等を訪問し、LEGOロボット作成や、オリジナル下敷き作成など、普段経験することができない授業を体験していただきました。このほかに、鈴鹿市内の中学校2校からの依頼で、上級学校の体験授業として「商船概論」の授業を行い、進路として商船学科・船に関する仕事を知っていただく良い機会となりました。



IchigoJam でマイコンプログラミング講座

公開講座一覧 サイテクランド in 鳥羽商船高専

講座名称	開催日時
船員の仕事 in 鳥羽商船（鳥羽クルーズ）	台風接近により中止（7月27日（土））
英語高速学習～中1で英検3級へ～	8月1日（木）～8月6日（火）
ソーラーで動くおもちゃ工作	8月7日（水）
おもしろ理科実験	8月20日（火）
レーザー加工機を用いてオリジナルグッズを作ろう	8月20日（火）
3Dプリンタでオリジナルグッズを作ろう	8月21日（水）
IchigoJamでマイコンプログラミング（U16プログラミングコンテスト三重大会事前講習会）	8月23日（金） 8月24日（土）
小学生のためのバレーボール教室	10月5日（土）

出前授業一覧

講座名称	開催日時
商船概論	6月28日（金）
LEGOロボットを作ろう	7月22日（月）
オリジナル下敷きを作ってみよう	8月8日（木）
LEGOロボットを作ろう	8月19日（月）
商船概論	10月8日（火）
ロボット教室	11月9日（土）



編集後記



新学科「情報機械システム工学科」も設立され早9ヶ月。今回も無事、学校だより第91号を発行するに至り、皆様のご協力に感謝しております。本年もたくさんの学生の活躍があり、学生活動報告、行事報告と合わせて20件を超える文章を掲載するに至りました。

まだまだ報告ができなかった活躍等もありますが、学校の近況、進路の報告等と合わせてお目通しいただければ幸いです。（澤田記）

